



遠大勵志

外国人が選ぶまちの姿説く

岩手日報記事(2/4)より

ジエロ・中村さん講演

国際都市推進きたかみ市民会議(伊藤彬会長)と北上市は、1日夜、同市大通りの市生涯学習センターで多文化共生講演会を開いた。同市出身で日本貿易振興機構(ジエロ)参与の中村富安さん(64)を講師に、外国人に選ばれるまちづくりに理解を深めた。市民ら約110人が聴講。2020年ドバイ万博日本政府代表を務める中村さんは、外国人労働者が増える中で、居住地や観光地に選ばれるための環境づくりや心構えを説いた。

同市には現在、技能実習生ら600人を越す外国人が暮らす。中村さんは外国人との共生に伴って世界で発生する問題や、他自治体の受け入れ例を紹介。「国の制度は後追いで、善意やボランティアで成り立っている。災害時には外国人を孤立させないなど住民や企業、自治体自ら対処する覚悟が必要だ」と助言した。

黒沢尻北高1年の佐々木瑞紀さんは「今年はラグビーワールドカップ(W杯)で多くの外国人が訪れる。言葉の壁はあっても親切に接する気持ちを持ちたい」と関心を高めた。

中村富安さんについては、校長通信No.52, 58でも取り上げました。世界で活躍されている先輩の姿に触れて、私たちは大きな刺激を頂きます。「志」を高くもって、今この瞬間を精一杯頑張りたいですね。

こくおうりょう 寄宿舎「黒鷹寮」・・・

本校に赴任以来、何度も目にしている黒鷹寮記念碑ですが、これについて、調べてみたいと思い、黒陵50年史(1974年発行)と黒陵70年史(1994年発行)を手にとってみました。その中に書かれていた内容を紹介いたします。

遠距離から入学した生徒のための寄宿舎は、大正15年、二子街道でモモ畑を経営していた飯盛農園の好意でその離れ

家を借りたことが始まりだった。その後、寄宿舎「黒鷹寮」が完成したのが、昭和4年。完成当時の寮生は56人。食費は月額10円80銭、舎費が1円50銭だったという。その後大勢の学生を收容し勉学の便を図った寄宿舎は、昭和36年11月限りで廃舎となった。

寄宿舎史(黒鷹寮史)【黒陵50年史より】

「大正13年12月1日寄宿舎の竣工と共に9名の生徒を收容せり。……その後増築され、昭和4年には239.25坪、自習室兼寢室13、その他食堂、会議室、読書室、浴室……など備えた黒鷹寮となった。」12月1日は「開舎記念日」、12月の土曜日を

選んで寮祭が行われた。この日は学校を公欠にし、紅白の幕を張り巡らす中で、幾日となく餅をつき、この日は



黒鷹寮正面玄関(昭和13年)

かりはふんだんに食べ、夜を徹して歌い、語り合う青春を謳歌する待望の日であった。行事として舎生歓迎会、観桜会、旅行、試胆会、月見、茸狩り、スキー大会、予餞会等、寮生の増加と共に次第に寮らしい形に定着していったのである。



時代と共に障子は破れ、古びた柱や天井、押し入れ、至る所巢立つ先輩の名

文句が書き連ねられていた。すべてが歴史のしみこんだ黒鷹寮も戦後の激動と新学制は、舎生の減少となって現れた。

そして、「昭和36年12月1日」38年の歩みが永久に絶えた

のである。そして、その跡に東北で初めての、ピロティー式体育館が昭和43年2月20日に竣工したのである。



黒鷹寮史【黒陵70年史より】

記念碑の話がでたのは、昭和58年頃からで、すでに廃寮、取壊しから30年が経っていたが、青春の思い出としての黒鷹寮の存在は、旧寮生の心の中に暖められていた。記念碑建立の機が熟し、1987年(昭和62年)に黒鷹寮同窓会が結成され、1990年(平成2年)に記念碑発起人会が設立され、募金活動が行われ、待望の記念碑が旧寮跡地である現体育館の前庭に完成し、1991年(平成3年)5月1日の開校記念日に除幕式が行われた。



★★★黒鷹寮記念碑★★★



=== 碑文 ===

此の地に大正13年から昭和37年まで
幾百の黒陵健児が青春を謳歌した
遙かな過ぎし日の汗と涙の思い出は
永遠(とこしえ)に萩江ヶ丘にとどまるであろう
平成3年桜花爛漫の日に
黒鷹寮同窓会

=== 寮歌の一番の歌詞 ===

仰ぎて見よやみちのくの
瑞雲たなびく萩江こそ
瞳輝く若人の
集えるところ黒鷹寮

さらに、碑には、旧黒沢尻中学校、黒沢尻高等学校、黒沢尻北高等学校の3つの校章が刻まれている。

【現在の黒鷹寮記念碑 2月6日撮影】



黒鷹寮の名称の起源や命名者は、はっきりしないが、「鷹は飢えても穂を摘まず」の古諺によるものと考えられている、高潔な人はどんなに困っても不正な金は受けない、転じて、いやしいまねなどしない。「濁しても盗泉の水を飲まず」と同意。黒中健児の高い志操が掲げられている、と記載されていました。

後期末考査第①日目

1年生、2年生のみなさん、今日から4日間の試験が始まります。部活動停止期間には帰宅後しっかりと準備に取り組んでくれたものと思いますが、是非とも精一杯試験に臨んで下さい。目の前に迫ったことにしっかり向き合い、万全の準備を怠らない姿勢は、社会に出てからも必要なスキルになります。今週末の3連休の取り組みも大事になってきますよ。

国公立大学出願終わる

昨日で、前期と後期の国公立大学への出願が締め切られました。まもなく3年生には受験番号が印字された受験票が返送されてきます。いよいよ始まりますね。

黒陵70年史の中で、部活動にも学習にも「**逆転の黒陵**」という言葉が使われていました。先輩達も頑張ってきた証拠ですね。出願したからには「必ずや合格を勝ち取る」という強い気持ちを持って、悔いのない残り18日間、自分を信じて頑張りましょう！先生達も応援しています。

